

長岡市長賞

「長岡花火」と税金

長岡市立東北中学校

三年 竹谷 陸

今年も長岡花火が終わった。二日間で百八万人が夜空を見上げ、十五回目のフェニックスに心を震わせたことだろう。もともと長岡空襲で亡くなられた方を慰め、復興に尽力した先人たちへの感謝と、平和への願いを込めた長岡花火だが、今や長岡から世界へ誇れる一大イベントであり、長岡の経済にとっても欠かせない行事だ。

長岡のふるさと納税返礼品に、お米や栃尾の油揚げと並んで、四十万円の寄付で屋形船舶上棧敷席二名分、十五万円の寄付で、宿泊付き右岸ベンチ席ペア、一万円では先着三百席の右岸ベンチ席というものがある。僕は友達と水道公園近くの土手でレジャーシートを広げて見たけど、お金を寄付してまで、長岡花火を見に来てくれるなんて、それだけでありがたいと思った。長岡市外以外の方のおかげで、長岡の人づくりや元気なまちづくりの一部を担っていただいているなんて、税について調べてみて初めて知った。具体的に言うと、昨年僕が参加した「熱中！感動！夢づくり教育」のバスケットボール教室。東京の有名な講師の方から、たくさんのプレーを教えていただいた。来年の東京オリピックで、火焰土器の魅力を世界に発信することに

も使われるらしい。長岡市以外の方からの税金で、僕たちのためになることがあるなんて驚いた。

少し前の試算だが、長岡花火の開催には三億円掛かるが、経済効果は三十八億円あるというのを聞いた。その半数が宿泊と飲食だ。僕の父の会社は打ち上げに協賛しており、会社名がアナウンスされる打ち上げの日には、遠くからのお得意様を招待して、次の仕事につながるようにおもてなしするらしい。長岡にはそういう企業が多く、もし新しい仕事につながれば、その企業、また長岡市や国のためになる。多くの観光客がレジャーシートやビールや唐揚げを買った時には、消費税が企業を通して、国や長岡市に入って、最終的には、年金、医療、介護、少子高齢化対策に充てられるという。全然イメージの沸かなかつた税金は、まわりまわって僕の生活に密着していることを、長岡花火を通して感じた。

この十月に、消費税が八パーセントから十パーセントに上がることで、この夏休み我が家では、今買うべきものそうでもないものの仕分け会議が行われ、電球を「E27」に取り替えたり、ダイニングチェアを買い替えたりした。給湯器は購入ポイントが付くからと見送るらしい。まさに駆け込み需要と、買い換えが目の前で起きている。消費税が二パーセント上がることで、うちのことから、企業がいくらでもものを売るかということまで、こんなに世の中が大きく動くのだから、その使い道にも関心を持たなければと思った。十月から今より高いラーメンをお店で食べるときに、気持ちよく将来のためだからと納得できるように、政府には使い道を考えてほしいと思った。